

2022年6月実績概要(メモ)

(2022. 7. 21)

エチレンプラントの稼働低迷が続く、誘導品の生産も定修要因などから製品毎で大きな差が出る。

1. 生産動向

イ) エチレン 431,300トン

前月比 ▲6.4% (▲29,600トン)

前年同月比 ▲6.5% (▲30,000トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2 %	—
定修要因等	+ 0.6 %	+ 4.4 %
能力増減	—	—
稼働率変動	▲ 3.8 %	▲ 10.9 %
生産増減率	▲ 6.4 %	▲ 6.5 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月87.4%* → 当月84.4% ← 前年同月93.2%

定修プラント：前月2社2プラント → 当月2社2プラント ← 前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減や定修規模の増加もあり、LDPE、PP、塩ビ樹脂、MMAモノマー、EO、EG、AN、SBRなどの12品目がマイナス。PS、SM、塩ビモノマーなどの5品目はプラスとなった。

前年比では、定修規模差と稼働率要因等からLDPE、PP、SM、塩ビ樹脂、EO、EG、SBRなどの9品目がマイナス。HDPE、PS、塩ビモノマー、AN、BRなどの8品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LDPE、HDPE、PP、PS)

イ) 生産

前月比は、日数減や定修規模の拡大から、LDPE、HDPE、PPでマイナス。PSは主に稼働率要因から若干のプラスとなった。

前年比は、LDPEは稼働率要因等から、PPは定修規模の増加からいずれもマイナスとなった。他方、HDPEは定修規模の縮小、PSは稼働率要因からプラスとなった。

ロ) 国内出荷

需要サイドでは、消費マインドは、持ち直し基調が続いているが、前月と比べると弱さが見られはじめています。また、国内の生産活動では、中国のロックダウン解除後、各種の部品供給制約の緩和から、上方計画を出す業種が増加しているが、下方修正がなされる場合も多く、先行きの見通しが困難となっている。

樹脂の出荷は、連休のあった前月に対して、当月は、ユーザー産業での稼働日数の増加もあり、LDPE、HDPE、PPともに前月比はプラスとなった。PSは前月の出荷が比較的好調であったこともあり、マイナスに転じることとなった。

前年比は、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。分野別にみても、前月と同様に、LDPEの加工紙分野、HDPEの射出成形分野、PPの中空成形分野など、特定分野の出荷が前年を上回る程度にとどまっている。また、PSは、包装用、雑貨・産業分野を中心に全出荷分野で前年を下回るることとなった。

ハ) 輸出

前月は、中国のゼロコロナ政策による需要低迷から輸出が大きく減少した。当月はこれに対して、LDPE、HDPE、PP、PSともにプラスとなったが、依然として、製品市況も目立った復調の兆しは見られていない。

前年比は、LDPEは微増となったが、HDPE、PP、PSはマイナスが継続している。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対してLDPE、HDPE、PPで減少し、PSは増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPEで低下、PP、PSは上昇した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PPはほぼ適正、PSはやや高めの水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		5月末	6月末
LDPE	▲16,300	3.2	2.9
HDPE	▲9,400	3.3	3.1
P P	▲50,200	3.0	3.1
P S	+7,900	1.8	2.3

前月からの修正を*で付記

以上